

【基本方針】

1. 市民に受け入れられる変化の創出
2. やさしくあるためにつよくなる JAYCEE の確立
3. 過去から未来へ通じる周南青年会議所のアイデンティティの確立

～はじめに～

「JC しかない時代から、JC もある時代へ」近年よく耳にするフレーズではないでしょうか。戦後の荒廃から志を持った若者が青年会議所運動を始めて半世紀以上が過ぎています。日本の復興を支えたのは紛れもなく各地の青年会議所の先人でした。周南、下松の地においても同様であり、徳山青年会議所 46 年、下松青年会議所 37 年、そして周南青年会議所 12 年の歴史はこのまちに大きな足跡を残しています。我々はその輝かしい実績に敬意を示すとともに我々の誇りにすべきと考えます。

～ともにいきる～

人々の価値観や行動が多様化した昨今では、人々は何を規範に生きていけばよいのか判断し難い社会となっています。また、課題先進国と表現されるように物質的に恵まれている反面、これまで経験したことのない、一方向からの切り口では解決できない課題に社会は直面しています。「JC もある時代へ」とはまさにこうした社会情勢を表現したものではないでしょうか。我々は JAYCEE として新しい課題を探求し、開拓し続けなければなりません。また、JCI 綱領にもあるように人間の個性はこの世の至宝であり、多様性を否定してはいけません。まずは我々が、多様性に対応できる確固たる信念を確立していく必要があります。そして、すべてとの調整役となり、つながりの強さを深めることで、互いに配慮し共存できる共生社会を実現しましょう。すべては、明るい豊かな社会を築き上げるために。

～ともいき～

仏教の教えの中で引用されることの多い「ともいき」という言葉には、過去から未来へつながっている‘いのち’との共生という意味が込められています。人は一人では生きられない。だからこそ今この時の横のつながりを必要としますが、それだけではなく過去から未来へつながっている一筋の縦軸があるというものです。

さて、この言葉の意図するところを我々に落とし込んでみましょう。今ここに素晴らしい仲間とこうして集えるのは、周南青年会議所をここまで発展させてきた先輩諸兄がおられるからです。そうした方々が残してきた志や信念を我々は尊重するとともに、次の世代の仲間へと伝える責務があるのです。

周南青年会議所のアイデンティティを再構築しましょう。

～優しくあるために強くなれ～

強い人とは強い信念や覚悟を持った人のことを言うのだと考えます。会社を守る。家庭を守る。青年会議所で活動する。すべて大事なことであり、何を行うにしても覚悟が必要です。青年会議所活動には多くの学びがあります。時には叱咤され、恥をかき、それでも頑張る中で仲間助けられ、その中から使命感が生まれ、やがて信念や覚悟にかかわります。そうした学びは社会人としても、一人の人間としても、大事な人を守るために必要な強さになります。信念や覚悟を持って青年会議所活動に向き合っていただきたいと思います。ここは我々に能動的になる機会を与えてくれる学びの場なのです。

～JAYCEE の底力の向上に向けて～

青年会議所には多くの役職があり、各自が単年度制の中で役職に徹します。青年会議所での役職の軽重は会員に対する担いの重さであり、それをサポートするためにフォロアメンバーが存在します。青年会議所において委員長という役職は重要であり、多くの学びがあります。委員長という役職をすべてのメンバーが経験してほしいものです。委員長を目指す人材を多く輩出するためには、委員長をサポートするメンバーの関わり方も重要です。様々な調査や研修を行い多くのメンバーが委員長にチャレンジできる環境を整備します。

また、事業は目的、ゴールではなく、問題解決するための手段、手法であり、事業を通じて地域に運動を効果的に発信しなければなりません。検証に際しても、それらが地域にどのような変化をもたらしたかという尺度で判断されなければならないものです。青年会議所運動の本質を確認する場として、事業の組み立て方を考える研修を行います。

～世界から見た日本人を認識することから始まる国際交流～

グローバル社会にどのように対応していくか、それは企業の問題にはとどまらず、我々市民の課題でもあります。風習や文化が違えば、我々が当たり前と考えている事柄も非常識となることもあります。

世界の中での我々日本人を強く認識することは自身を見つめ直すことにもつながり、また、確固たる自己認識を裏付けに国際社会に向き合うことはより深い相互理解へと発展します。より多くの次世代を担う市民に対して日本人としての自分自身を見つめ直し、価値観の違いを互いに乗り越え、積極的に相手に関わる姿勢を養う機会を創出することで、「OMO I Y A R I」の心をもってお互いの価値観を橋渡しするリーダーを育成します。

～地域の未来は子どもに託す～

子どもたちを取り巻く環境については、多方面からの問題提起が必要となる複雑な課題です。その中でも価値観の多様化は重要な課題の一つではないでしょうか。かつて各家庭は同じ価値観と信念を持っており、子どもの社会のルールも似たようなものでありました。また、親が子に期待することも同じでありました。しかし、今や各家庭で様々な価値観や基準があるように感じます。子どものする良し悪しの判断にもさまざまな解釈がなされ、子どもたち自身が混乱する社会となっているのではないのでしょうか。多様化する価値観の中でも軸足の定まった、まっすぐな倫理観を育むことが必要です。

また、インターネットや携帯電話の普及により一人で過ごすことが増え、他人との関わりを避け、進んで人の輪に加わろうとしない傾向にあるのではないのでしょうか。人との関わりの中には、子どもたちの成長に必要な社会性や競争心を育む多くの学びの機会が存在します。相手への配慮から生まれる社会性や向上心の原動力となる競争心を子どもたちが正しく育む環境を創り出すことが必要です。

～みんなで実現するまちづくり～

「まちづくり」は「ひとづくり」である。

周南青年会議所では過去にさまざまなまちづくり事業が行われてきました。明るい豊かな社会を築き上げるという使命のもと、さまざまな角度で問題提起を行い、行動する過程で我々JAYCEEは多くの学びを得てきました。そして、多くの諸先輩方は学びの中で自身の行動を変え、卒会されてもさまざまな場面でまちづくりを推進する原動力となっています。

「青年会議所は究極のひとづくり団体である」とはこのようなことを表現しているのでは

ないでしょうか。誰かの考えが変わり、行動が変わることでさらに深く社会に広まる。我々の推進する運動をより広く、より深く広めていくためには、より多くの賛同者を増やすことが重要です。運動について真剣に考えることで得られる使命感と何かを成し遂げることで得られる達成感をより多くの若者と共感することで、より多くの賛同者を得ることもつながります。「明るい豊かな社会を築き上げるのはひとである」の精神の下、まちづくり団体としての周南青年会議所の事業のあり方を多方面から研究し、より着実な運動を展開して参ります。

周南青年会議所の行う事業に参加することにより、市民の皆さんには多くの「気づき」と「学び」を得ていただいています。しかし、その「気づき」や「学び」がどれだけ市民の行動を変えることができているでしょう。さらに、それらがどれだけ人から人へ伝播されているのでしょうか。明るい豊かな社会の実現は、地元を誇りに思う「郷土愛」の醸成と自分の力で地域を変えたいとする「参画意識」の向上と未来を担う青少年が抱く「夢」です。各委員会の伝えようとする「気づき」と「学び」の深さと、より伝播させるという「広がり」をさらに強めるために、周南青年会議所 2015 年度の各事業の集大成として、より多くの市民に対して周南青年会議所の運動を発信する場を設けます。

～拡大30人達成に向けて～

大人になって率直に学びを得る機会はありません。青年経済人として活動する中では実益に供する学びに偏ることも事実です。青年会議所という互いの利害に関係のない仲間と時に厳しく切磋琢磨する場での修練は多くのことを学べるでしょう。40歳までの限られた期間だからできる青年会議所での学びは会員の今後の活躍に大きな影響を与え、また、そんな青年経済人が多く輩出する地域は明るい豊かな社会を実現できるでしょう。

周南青年会議所に集うすべての会員の責務は、一人でも多くの会員拡大と次世代を担う会員の育成です。みんなの力を集結し成し遂げましょう。

～JCの絆～

「足並みをそろえて行こうじゃないか」これは若いわれらの一節です。多くの会員が所属する周南青年会議所はさまざまな個性の集まりでもあり、素晴らしい LOM です。委員会配属を通じてさまざまな個性が交流し、個別のつながりを深めていますが、しっかり関わっていない会員もいるのではないのでしょうか。会員ひとりひとりの活躍をみんなが認め合い称賛すること、各会員が周南青年会議所の行う活動に参加しやすい環境を整えることで絆と結束が生まれるのではないのでしょうか。

JC の絆と結束を深めることを通じて、会員の自己実現のサポートをします。

～例会出席と広報～

月に1度一堂に会し、会員の行う運動を確認しあう場である例会への出席は我々の義務であります。多忙の中、多くの会員は時間を調整し出席しています。また、例会を企画、運営する担当委員会もまた、多くの時間を準備に費やしています。そうした貴重な例会の時間をすべての会員が尊重できるよう、規律のある運営と確かな学びの場となるよう運営して参ります。

また、我々の運動を周知すべく、積極的な広報活動を行います。

～地域の魅力の発信～

周南、下松地域には観光資源は豊富にありますが、それらの資源が効果的に発信できていないのが現状ではないでしょうか。枠組みにとらわれず自由な発想で行う情報発信や市民が誇れるものを創出することで地域を元気にする取り組みとして周南青年会議所では「周南萌えサミット」を開催してきました。これまでの検証を行い、より地域を巻き込んだ運動へと展開していきます。

また、今年度の第5回を節目の年とし、周南青年会議所の主催を離れ独立した運営を行い、長く継続できる仕組みを作ります。

～事業の継続性を考える～

周南青年会議所では毎年委員長の想いのこもった事業が実施されてきました。地域に対しての変化を志向して行う事業では継続性は欠かせない要素です。しかし、青年会議所の単年度制という制度が理由となり多くの事業は継続されることはありません。これは矛盾していることのようにですが、周南青年会議所の会員の成長を考えると、新規事業を組み立てることがより学びにつながるとの側面もあります。このような矛盾に対して、すべての会員は常に意識をもって向き合ってほしいと考えます。どちらも大事であり、両立できるよう企画しなければなりません。

一つの考え方として、すべての事業はその計画段階から単年または複数年度計画なのか明確にしておくべきという考え方があります。事業の検証がなされ、効果が認められ、目的解決のための継続が必要なときに継続するべきではないでしょうか。

我々が目指す「明るい豊かな社会の実現」は地域に向けた運動により実現するものですが、われわれ JAYCEE が学びを得て地域に還元することでも実現できるものだとも考えます。

われわれは目的達成のために何が必要か常に考え行動していきます。